

令和6年度環境活動報告

部局名：事務局

教育	
研究	
社会連携	◆ 十六銀行と連携し、省エネ、環境美化やごみ減量など身近な視点からエコ活動を啓発する目的で、「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を附属小中学校において実施した。ポスター作品の募集は14回目で、今回新たな試みとして川柳部門を設けた。12/6に学長室にて表彰式を行い、入賞者6名を表彰した。また、全応募作品を11月に図書館で展示した。【施設】 ◆ 岐阜県博物館主催の移動展示企画「岐阜県博物館・岐阜大学連携企画「絶滅から救え！ぎふの鳥ライチョウ」に資料を提供・協力した（4月～9月、岐阜県内の複数の商業施設にて開催）。【学術】 ◆ 岐阜県と共催して令和6年度岐阜大学シンポジウム・岐阜県生物多様性シンポジウム「いまをいきづらい植物たち-岐阜県の絶滅危惧植物と外来植物-」を開催し、地域の自然環境への関心を高める機会とした（12/14・岐阜大学講堂）。また、関連展示として「岐阜の野山を、いきづらい植物たち」を開催した（12/2～1/31・図書館エントランスホール）。【学術】
キャンパスプラン	◆ 環境マネジメントシステムについて継続的に取り組み、ISO 14001の維持審査を10/2,3に受審し、11/8付けで認証の更新が認められた。 ◆ 本学職員と学生による内部環境監査を9/2～4に実施し、11/21に学生内部環境監査員の修了証授与式を実施した。 ◆ 春と秋の年2回実施のクリーンキャンパスに積極的に参加し、環境美化と環境への意識向上を図った。（5/22、11/13） ◆ メール会議やWeb会議、電子決裁（ワークフロー）の活用により、用紙の使用抑制ができた。 ◆ 「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」に基づき省エネルギー・節電の取り組みを実施した。 ◆ 新規採用職員研修において、4/5に「ISO14001の取り組み」の講義を実施した。【人事】 ◆ 教職員に対して省エネルギー及び環境配慮への観点から、「岐阜大学キャンパス消費電力見える化サイト」（施設統括部HP及び環境社会共生体研究センターHP）を開設した。また、夏季及び年末年始の休業期間に節電行動を呼びかけ、「待機電力CUT」による効果を検証した。【施設】 ◆ 省エネルギーを推進するため下記工事を実施した。【施設】 ・総合研究棟Ⅰ、医学部看護学科校舎の一部及び第2食堂の空調設備を高効率機器に更新し、空調負荷を低減した。 ・附属学校の照明をLED化 ・畜産・農産製造室の屋上防水に太陽熱高反射率の材料を使用 ・教育学部改修1期（BEI＝0.49） ・COMIT改修（生命科学棟BEI＝0.51、入院動物舎BEI＝0.68） ※BEI（Building Energy Index）とは、エネルギー消費性能計算プログラムに基づく、基準建築物と比較した時の設計建築物の一次エネルギー消費量の比率のことです。BEIの値が低くなるほど省エネ性能が高く、BEI≤1.0は省エネの基準に適合している建物となります。 ◆ キャンパスマスタープランに基づき、環境保全を図ると共に、教職員・学生・学外の利用者が安全・安心で快適に過ごせる大学環境整備として以下の工事を実施した。【施設】 < 構内道路・歩道修繕 > 構内舗装の補修 < 照明設備更新等 > 附属学校の照明を改修。構内外灯の一部を改修 < 安全の確保 > ・附属学校北校舎外壁改修 ・環境社会共生体研究センターの外壁改修 ・畜産・農産製造室の屋上防水改修 ・地域科学部校舎他の昇降機設備の部品取替え < 研究拠点整備 > 医獣薬一体型非臨床研究施設の整備

	◆岐阜大学学生によるボランティア団体「ゆにんくる」の活動を受け、教育学部校舎改修2期工事の実施設計において、ユニバーサルシートの設置を盛り込んだ。 ◆環境への取り組みの充実【施設】 ・東海機構として9月に環境報告書を発行し、岐阜大学の取り組みとして2月に環境リーフレットを発行した。 ・「環境報告書2024」について、8/7に公立大学法人大阪と意見交換会を行った。 ・11月にエコ活動啓発ポスター・川柳作品の展示、図書館壁面に懸垂幕の掲揚等の環境月間行事を実施した。 ・学生の環境活動を支援し、環境サークルG-ametが6/3開催のASCN 2024年次大会で3位入賞をした。
--	--

令和6年度環境活動報告

部局名： 研究推進部

教 育	
研 究	○環境科学に関する研究を引き続き計画通り実施した。 ・再生可能エネルギーを基盤とする地域分散型太陽光発電，バイオマスエネルギー，地熱の高効率利用・アップグレード化・蓄エネルギー等の技術に関する研究 ・カーボンニュートラル化に向けたエネルギーシステム，ゼロカーボンキャンパス，カーボンリサイクルのための技術課題解決と実証に関する研究，高性能速度制御等に関する研究 ・生態系の機能と動態に関する研究，野生動物の管理に関する研究 ・温暖化に対する森林生態系の炭素・水循環機能の応答に関する研究 ・山地森林集水域における気象・生態系・生物多様性に関する研究 ・流域圏の自然環境―地域社会の持続的共生に関する研究 ・気候変動及び人口減少等の社会環境の変化が地域にもたらす影響評価手法の研究 ・気候変動影響に対する適応策の研究 特に長良川流域における森・里・川の気候変動適応が中山間地域の生業の持続性とウェルビーイングに与える影響の研究を推進し、中間的な研究成果の発信としてシンポジウムを開催した。 ○カーボンニュートラルおよび自然環境と共生する社会の構築を目指して，大学と地域の連携を推進した。 ・カーボンニュートラルの推進や環境共生社会の構築に関連した環境・エネルギー分野の研究・実践，地域協働，人材育成に関する情報交流および連携支援を行った。 (「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」の地域ゼロカーボンWG，イノベーションWG，ゼロカーボン・キャンパスWG，人材育成WGへの参加)
社 会 連 携	○岐阜県気候変動適応センター事業を岐阜県と共同実施し，岐阜における気候変動適応に資する地域ニーズに対応した共同研究(流域治水に関する研究や熱中症リスクに関する研究などの6テーマについて実施)を推進し，緩和・適応に資する人材育成と普及啓発の支援を行った。 ○岐阜県環境基本計画に基づいて岐阜県との連携のもと進めている「地域志向人材」と「次世代地域リーダー」育成を目指す「次世代地域リーダー育成プログラム環境リーダーコース」を4名の学生が修了し，地域の環境に係る課題等の解決のためリーダーシップを発揮し活躍できる人材の育成を推進した。 ○「次世代環境リーダー育成に係る連携授業」を岐阜県から受託し，環境人材・グリーン人材の育成を推進した(世界農業遺産「清流長良川の鮎」の拠点施設である「あゆパーク」を現地学習先に選定し，「あゆパーク」が提供する新たな環境体験メニューや世界農業遺産を県民により深く認識してもらうための新たな施策などを盛り込んだ授業を実施した)。 ○地域志向学プロジェクト・自治体等との共同研究等やぎふフューチャーセンターの中で，輪之内町と共催で「ぎふフューチャーセンター」を開催することにより，環境をテーマとした研究課題や活動を重点的に支援し，地域の課題解決に積極的に取り組んだ。 また，包括連携協定に基づき，FCぎふの試合日に，岐阜大学の環境に関わる取組を紹介するブース出展を行い，環境啓発事業を支援した。
キ ャ ン パ ス プ ラ ン	○クリーンキャンパスに積極的に参加し，環境美化に努めるとともに環境に対する意識の向上を図った。 ○地域協学センター西側にゴーヤ，今年度から南側にも朝顔とヘチマを栽培し，二面からグリーンカーテン効果で，真夏の直射日光を遮り，室内温度上昇を抑えた。

令和6年度環境活動報告

部局名：学務部

教育	1. カリキュラムの充実 ・教学委員会において全学の環境活動計画を周知し、環境保全の重要性を深める教育の一層の推進を図る。 →教学委員会において、全学の環境活動計画を周知し、環境保全の重要性を深める教育の一層の推進を図った。 ・全学共通教育において、環境に関する科目を実施する。 →全学共通教育において、環境に関する授業科目を32科目開講し、1,535人の受講者があった。また今年度は、全学共通教育科目「化学入門(日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ)」の特別講義として、NHKエンタープライズエグゼクティブ・プロデューサー 堅達京子氏による「持続可能な社会を目指すには一将来のエネルギー供給体制、社会規模の環境問題・機構変動について考える」をテーマに教養講演会を実施した。(参加者:167名) 2. 正課外活動における環境教育の推進 ・環境保全活動を実施している学生の課外活動団体に対し支援を行う。 →課外環境活動を実施している学生団体「岐阜大学環境サークルG-amet」に対して経済支援を行った。同サークルは、Asia Sustainable Campus Network Conference 2024にて団体3位となったことから、岐阜大学としても副学長表彰を授与した。 ・クリーンキャンパスへの学生の積極的な参加を促す。 →全学の学生や課外活動団体へクリーンキャンパスへの参加をメールやTeamsを通じて呼び掛けた。また、課外活動団体に対して使用施設周辺のゴミ拾いをするよう、具体的に実施場所の割振を定めたほか、火ばさみ等の掃除道具の貸出やゴミの引き渡しを行う実施本部を設けたことにより、多数の学生の参加につながった。 ・シンポジウム等の開催。岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウムにおいて、環境に関するテーマで学内外の有識者から様々なアプローチを行い、環境と社会的活動に関する教育を推進する。 →岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2024で実施した「産官学金連携セッション」及び「学術セッション」において、「グローバル化による地球課題解決への挑戦」をテーマに意見交換及び発表を行った。「産官学金連携セッション」では、竹資源の活用についてのパネルディスカッションを行い、「学術セッション」の中では「SDGs達成のための食品及びバイオ産業の変革」についての講演や意見交換を行った。同シンポジウムは、メインシンポジウム、産官学金連携セッション及び学術セッションで構成されており、シンポジウム全体で256名の参加があった。
研究	
社会連携	・学内外の専門家(大学、研究所、シンクタンク、企業など)を講師として招き、本学の学生、教員が地域の方々と共に学び、議論する場として、「グローバル化のためのSDGs勉強会」を開催する。 →令和6年度は、令和6年6月～令和7年2月を開催期間とし、脱炭素、持続可能な食料システム等6つのテーマについて学内外の専門家を講師に招き実施し、学内外の参加者に多岐にわたる分野で学びの場を提供した。
キャンパスプラン	・環境美化を行い緑地保全を推進するため、年2回のクリーンキャンパスに積極的に参加した。 ・「ISO14001環境マネジメントシステム」に係る教育訓練再確認シートを定期的に記入し、自己啓発に努めた。 ・岐阜大学環境方針を常時携帯し、周知カードに各人の役割、環境保全活動を記載し、実行した。 ・昼休み時間における消灯、講義室の消灯、裏紙活用、縮小印刷など資源の再利用を促進し、省エネルギーに関する取組をより一層推進した。